

# 分科会19

## リカバリーを応援する当事者・医師関係とは？

ファシリテーター：伊藤順一郎（国立精神・神経医療研究センター）  
福井里江（東京学芸大学）

このワークショップは、“私たちはどのような精神保健医療福祉サービスを望むか”を語り合う場として、毎年企画しているものです。4回目となる今年は、リカバリーを語るうえで避けては通れない当事者・医師関係に焦点を当て、「ワールドカフェ」という方法で対話を行いました。これは、「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をし、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法です。

今回は、最近注目されている当事者と支援者の関わり方である Shared Decision Making（共同意思決定、SDM）についてお話したうえで、ワールドカフェに進みました。今年のテーマは、「皆さんが精神疾患になり、治療を始めたけれど生活がしづらい状況が続いているとしたら、あなたにとって望ましい診察とは、どんなことがそこで出来る時間ですか？ あなたが望まない診察とは、どんな診察ですか？」というものです。

1 ラウンド目は4人 1 組の小さなグループで話し合い、2ラウンド目はアイデアの他花受粉のためにメンバーをシャッフルし、話し合いを続けました。そして3ラウンド目は元のグループに戻り、気づきや発見を統合しました。どのグループも、皆さんがこれまでに感じてこられたであろう傷つきや怒りや願いがあふれ出し、熱のこもった話し合いが繰り広げられました。そして、「リカバリーを応援する当事者・医師関係に大切だと思うこと」を各グループ3つまで、書いていただきました。

その後、それらを黒板に貼り出しながら、全員で「リカバリーを応援する当事者・医師関係に大切な○カ条」について時間の許す限り話し合いました。その結果得られた収穫が次の7カ条です。

### リカバリーを応援する当事者・医師関係に大切な7カ条

#### ～あたたかい信頼関係のために～

1. 自己決定できる関係
2. 役に立つ情報を当事者に伝える
3. 当事者の人生観・価値観を当事者から学ぶ力量を
4. 情報共有は本人の同意を得てから
5. 当事者や家族の入ったチーム医療
6. どのようなときもあきらめないで当事者の人生を応援する
7. 希望を失わずに病気と向き合う

このような立場を超えた真剣な語り合いによって生み出された共同意志は、現実を突き動かしていく大きな力になるのではないかと思います。今後は、今回の収穫をいろいろな場で発信していくとともに、それぞれの地元でこのような話し合いが行われるような仕掛けも、引き続き考えていきたいと思っています。

《福井里江（東京学芸大学）》